

膚と云れり或説は貞任南郡並是厨川の
城は任とあり南郡は奥州なり天嘉祿は
厨川を出羽と云ふ説同くす於建武
譯へ

太平記評判十又し是奥州の国司郡家仁
の字は属く南郡の国は多海といふ
あり同是を厨川系合戦の条下に多海三
邦とあり宗任が末孫とて多海三邦と名乗
りたりや羽後記八巻は 後冷泉院永承
六年辛卯正月廿五日南郡の押領使権左

邦清衛使は令依に邦別政多海十邦並遠
羽馬山へ多海の本あり永承は天嘉の前
宗任以前も多海を名とく人ありし
もや又羽後記の叛に輕者の説もや其傳を志
らに 川邊郡お川村は多海といふ百姓あり 境隣

師安照といふお家く人もや其後鹿
又邦正任も南郡の国を領くたりや史記
十二卷の国は馬次といふあり陸奥記は
正任は貞任の部族とあり田川郡大馬山ふ
隠れく人白馬八邦は其上の国を領く